

1.単元の目標と単元構成

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の特色ある地域や産業，伝統・文化に関心を持ち，すすんで調べることを通して，自分の住んでいる県に対する誇りや愛着をもたせる。 ・ 県の地形や主な産業，交通網などについて調べたことをもとに，自分の県の特色について考えさせる。 ・ 県の地形や主な産業，交通網の様子などについて，地図や統計資料を活用して調べ，白地図やパンフレットなどに分かりやすく表現することができるようにする。 ・ 地図帳を活用して47都道府県の名称と位置を確かめ，白地図に表現させる。 ・ 県内における自分の住んでいる市町村の地理的位置や県全体の地形，主な産業，交通網の様子，主な都市の様子をとらえさせる。
--------	---

<p>(1)47都道府県の名称と位置 (4時間)</p> <p>①日本の形やJリーグチームの本拠地のある都道府県を調べ，白地図にまとめる。</p> <p>②他の県の名称と位置を調べ，白地図にまとめる。</p> <p>③④都道府県クイズを作って発表し，解き合う。</p> <p>※47都道府県の名称の習得は，単元を通して毎時間，授業の始めの5分間を使い，フラッシュカード等を用いて行う。</p>	<p>(2)県全体の様子 (8時間)</p> <p>①新潟県が何地方であるのか，隣接する県の数と名称を地図帳で確かめる。ペンで県の形をなぞり，自分たちの市の位置や主な都市を調べる。</p> <p>②③立体地図を作り，県全体の地形を調べ，主な河川や山を書き入れる。</p> <p>④⑤⑥簡単な統計資料をもとに，新潟県の全国No.1や自慢できそうなこと(特色・産業)を調べ，白地図にまとめる。</p> <p>⑦⑧県内外へ旅行に行くときに使う鉄道，高速道路，航路などの交通手段を調べ，白地図にまとめる。</p>	<p>(3)県の特色ある地域の人々の生活 (13時間)</p> <p>①海に囲まれた佐渡市について，自分たちの市と比べながら，人口や地形，盛んな産業を調べる。</p> <p>②トキの保護活動について知る。</p> <p>③疑問に感じたことを調べる。</p> <p>④調べたことをカードに記入し，佐渡市の地図に貼る。</p> <p>⑤山に囲まれた十日町市の位置や土地の使われ方について調べる。</p> <p>⑥十日町市の観光や産業を調べる。</p> <p>⑦⑧雪を産業や観光，祭り，冬以外の生活に生かしていることについて話し合い，文章にまとめる。</p> <p>⑨家にある伝統工芸品を紹介しあう。村上市の木彫り堆朱の実物に触れ，疑問に感じたことを話し合う。</p> <p>⑩⑪疑問に感じたことを調べ，カードに整理して書き，掲示する。</p> <p>⑫⑬学習したことを，新潟県を紹介するパンフレットやポスターに表す。</p>
--	--	--

2. 指導計画作成上の工夫と留意点

(1) 身近な題材から都道府県の位置をみる

本単元では、都道府県の名称や位置へ児童の関心をひくため、プロサッカーチームの本拠地を取り上げた。大単元全体の導入でもあり、学習の動機付けとして「児童に身近な話題（題材）から入る」という視点が大切である。プロ野球やプロバスケットボールのチームでもかまわないし、スポーツでなくとも、スーパーマーケットのチラシに掲載されている食材の産地の都道府県を調べさせることも考えられる。

(2) 47都道府県の名称と位置の定着についての留意点

47都道府県の名称と位置を白地図に表すことができるようにするだけでなく、自分たちの県や市の位置を広い視野からとらえさせることが大切である。

そのためには「新潟県は日本全体から見て真ん中より少し北にある。」「新潟県は、山形県、福島県、群馬県、長野県、富山県と隣り合っている。」「新潟県は、東京都から見ておおよそ北にある。」といった位置の表し方を、教師が意図的に取り上げることが必要である。

また、47都道府県の名称と位置を社会科の授業ですべて覚えさせることは難しく、暗記のために授業時間を大幅に割くことはできない。そこで、この単元では、授業開始の5分間でフラッシュカードやパソコン・情報ボードを使い、名称と位置を確認する時間を確保したい。

さらに、教室に日本地図を常掲するだけでなく、入口のドア等に日本の白地図を貼り、紙をめくると隠された都道府県名が出てくるようにするなど、学習環境を整えるようにしたい。

習っていない漢字に抵抗感のある児童もいるだろう。難しい漢字や間違いやすい漢字を含む都道府県名については、漢字ドリルのように「なぞり書き」ができるプリントを用意して、朝自習などで取り組ませる方法が有効であろう。無理やり覚えさせるより、児童の知的好奇心に訴えかけながら、知識が広がるうれしさを感じることができ

るように工夫したい。

(3) 地図帳、統計資料の活用

地図帳は、単に都道府県の位置を確認するだけでなく、都道府県の人口や面積などの統計を調べる資料としても活用できる。ここでは、都道府県クイズ作りで活用するようにした。

また、県内の特色ある地域・産業を調べる際は、官公庁が作成した児童向けの統計資料やホームページを活用させたい。統計資料の内容が児童に無理がないかを教師があらかじめ確かめておいて、必要に応じて加工しておく。

(4) 県内の特色ある地域の選択について

学習指導要領では、内容の取り扱いにおいて、取り上げる地域を選択する際の留意事項が示されている。ここでは、「自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域」として、新潟県佐渡市と十日町市を取り上げた。佐渡市は、能や鬼太鼓、トキの飼育・放鳥や海洋深層水など、伝統芸能と自然環境を保護し、観光等に活用している。十日町市は、冬の積雪をスキーや雪祭り、米作りや野菜等の保冷に活用している。また「伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域」は新潟県村上市を取り上げた。木彫り堆朱（ついでしゅ）は、今でも優れた技術が伝承され、学習の資料が整っているからである。

3. 展開例

(1) 47都道府県の名称と位置〔4時間〕

小単元の目標 わが国が地理的に八つの地方に区分され、47の都道府県によって構成されていることを理解させる。また、各都道府県の名称と位置を、地図帳を活用して確かめ、その名称を白地図に表すことができるようにする。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	<p>◆示された都道府県的位置を調べ、白地図に表す活動を通して、日本は、八つの地方と多くの都道府県に分かれていることに気付く。</p> <p style="text-align: right;">(1)</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の白地図の海岸線を色鉛筆でなぞる。 ・Jリーグ1部（以下J1と略）のチーム表から、それぞれの都道府県の位置を地図帳で調べ、白地図に色をぬり、都道府県の名称を書く。 ・それぞれのチームが、何地方にあるかなど、教師の出したクイズを解く。 	<p>□白地図に四方位を書かせる。</p> <p>□Jリーグ以外のプロスポーツのチームを扱ってもよい。最初に自分の県の位置を確かめさせてから行う。</p> <p>●J1チームの名称と本拠地の表。</p> <p>●地図帳</p> <p>●都道府県の境界線が入った日本の白地図</p> <p>□地方ごとの境界線を太い赤色で記入させる。</p> <p>□作業後に「J1のチームは何地方に一番多いか。」「○○チームのある県は、新潟県から見てどの方角にあるか。」など、教師が問題を例示する。</p> <p><自分の県と示された都道府県の位置と名称を正しく白地図に書き表している。> 【技】</p>
調べる	<p>◆47都道府県すべての名称と位置を、地図帳を活用して確かめ、白地図に表すことができる。</p> <p style="text-align: right;">(1)</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色をぬっていない都道府県の名称を調べ、白地図にまとめる。 ・教師の出す問題を解く。 	<p>●1時間目に使った、白地図</p> <p>●地図帳</p> <p>□早く終わった児童には、難しい漢字の県名を書く練習をさせる。</p> <p>●難しい県名をなぞり書きすることができるワークシート</p> <p>□「大きな半島がある」「面積が大きい・小さい」など、特徴のある都道府県の形をフラッシュカード提示の要領で、教師が問題を出す。</p> <p>●県の形が描かれたカード（およそ八切画用紙大）</p> <p><47都道府県全ての名称と位置を白地図に書き表している> 【技】</p>

都道府県のいろいろなクイズを作り、問題を出し合おう。

◆クイズ作りを通して、それぞれの都道府県の名称や位置、特徴への理解を深める。(2)

- ③ 都道府県クイズの問題例
- ア 面積が一番大きい都道府県、一番小さい都道府県は。
 - イ 名前に「山」が付く県は。
 - ウ 名前に数字が入っている県は。
 - エ 一番北にある都道府県
一番南にある都道府県
一番東にある都道府県
一番西にある都道府県
 - エ 県名と県庁所在地の名前がちがう県を一つ言う。
 - オ 四国地方は4県。では、九州地方にはいくつ県があるか。
 - カ 海に面していない県を二つ言う。
 - キ 新潟県のとなりの県を全部言う。
- など

④できたクイズを交換し、解き合う。

・(希望した児童が)問題を発表し、みんなで解く。

●地図帳

●名刺の4倍大のカードを一人10枚程度。

- 問題例のいくつかは教師が提示し、児童に選択させてもよい。
- カード1枚につき、1問記入させる。
- カードの裏には答えを記入させる。

※一番南、一番東にある都道府県は、東京都である。(南端・東端の島が東京都であるため)

＜ある都道府県を選び、その位置や名称に関係する問題を考えて作成し、カードに書き表している。＞

【思・判・表】

- 問題を出し合う方法例
(エンカウンター的要領で)
まず、地図帳とカードを持ち、教室内を歩き回り、相手を見つける。／次に、互いに握手をした後、相手とじゃんけんをして、先攻・後攻を決める。／先攻から問題を出し、正解したら相手にそのカードを一枚渡す。／集めたカードの一番多い者がチャンピオンとなる。カードの裏面に名前を記入させておくと作成者に返却でき、くり返してできる。

- カの問題を「海に面していない県は全部でいくつあるか。」、キの問題を「隣接する県が一番多い県は。」など、教師が発展させ、自分たちで作った白地図を活用させて解かせるのもよい。
＜友達や教師から出された都道府県の位置や名称についての問題を、地図帳を使い解いている。＞【技】